

平成 29 年度地域課題研究助成の報告

1. 研究課題名

A 病院看護職における手洗いの実態調査

2. 研究代表者及び所属

瀧澤由佳 上越地域医療センター病院

3. 研究メンバー

瀧澤由佳¹⁾ 古澤弘美¹⁾ 内藤みほ²⁾

1) 上越地域医療センター病院 2) 新潟県立看護大学

4. 学内責任者

新潟県立看護大学 内藤みほ

5. 研究経費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額 (円)	792	0	0	27,677	28,469

6. 研究の概要

【目的】A 病院における手指衛生の現状を把握するために、看護職の認識や手技について調査し、現状と課題を明らかにする。

【方法】A 病院に勤務する看護職 116 名に無記名の自記式質問紙による実態調査を行った。

【倫理的配慮】 病院長と看護部長、師長会で承諾を得て調査を開始した。本調査は自由意思による参加であり、個人情報の取り扱い等について書面または口頭にて説明した。回答の提出をもって本研究に同意を得たものとした。

【結果】 手洗いの重要性は認識しているものの、実際の手指衛生にかける時間やタイミングにばらつきがみられた。手洗い場の環境不足を認識している者が 5 割、時間がないことを理由として、手洗いできない状況があると認識している者がいることも明確になった。

【考察】 A 病院の看護職は、感染対策において手洗いは重要と考えており、手洗いについての意識は高いが、手を洗う時間や、タイミングの認識不足という実態から、手洗いの環境不足や手を洗う時間がないことも関連していると推察される。

【結論】 A 病院の看護師は感染対策において手洗いの重要性に対する意識は高く強みとなる。しかし、正しい知識や技術を習得しきれていない実態や現状が明確になった。手指衛生の必要性やその選択について実際に示し、研修会で定期的に知識を提供しつつ、看護ケア場面を通し実践を繰り返し、自ら考え実践できるような手指衛生の教育支援を行う必要があると示唆された。

7. 今後の学会発表の予定

- ・有 (新潟県看護協会)